

Long COVID への治療戦略

山岡 傳一郎

イギリス、パーミンガムの尊敬する友人、マーリン先生からメールを頂いた。その中に「Thoughts around Long COVID and potential moxa therapy」のまとめが書かれてあった。

その中には、4つの Long COVID パターンが書かれていた。

We are planning to then allocate those applying into three (or maybe four) groups:

1. With clear chronic respiratory issues and chest pain as the key problem
2. Ones with chronic fatigue and muscle pain as the dominant symptoms - (トル)
3. Ones who we will allocate into a group with a protocol specifically designed to help reduce systemic inflammation (assuming that chronic inflammation left behind by the virus is a key component of the condition left behind by the virus.)
4. Perhaps a group with a protocol allocated that is designed to engage the vagus nerve.

私は、総合診療科外来および漢方内科外来で、Long COVID 患者を診察している。多くは、感染症科医からの紹介である。今回マーリン先生から提示いただいた Long COVID の4タイプには、類型としての特徴が明瞭に記載されているので、その治療手段についての戦略を私の臨床的経験および文献の検討から想起できたので、ここに紹介させていただきたい。また、多くの人々に批評を頂きたい。

なお、今後は実際の症例をこの4タイプに分類して NAJOM 紙に掲載させて戴きたい。

1. 胸痛を伴う呼吸器症状残存タイプ (柴胡剤型)

かつて、結核患者の診察していたとき、INH や RFP を使い治療を開始すると、一時的に胸部 XP 像が増悪し、患者が胸痛を訴えることをしばしば経験した。漢方医療の先人は、このような時、柴陷湯 (小柴胡湯と小柴陷湯の合方) を運用して良好な成績を得ていた。私も数例に使用した。結果は、非常に良好であり、NSAIDs (Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drugs) しか投与されない例と比べると、結核患者の評価が良かったことを思い出す。一般のウイルス性感染症後にも、柴胡剤を使うことはあるが、今回の COVID-19 感染症では、胸痛を伴う長引く呼吸器症状をもつ患者

には柴陷湯の適応例が多いのではないかと推定する。その理由は、SARS-Cov2 が呼吸器を中心とした ACE レセプターと親和性が高いことに関連するのではないかと考えている。

鍼灸で治療する場合には、おそらく背部の穴位を利用するであろう。

天宗：天宗の主治は、胸痛である。心俞、天宗、膈俞はほとんど一直線に並ぶ点であり、この辺りに反応があらわれると予想される。¹

膈俞：膈俞は、胸脇苦満の背部への反応点であると考えられるので、柴胡剤の適応症と一致する。膈俞は、神経症にも対応できる経穴であり、神経症に運用される柴胡剤に相当する経穴である。

2. 全身倦怠および筋肉痛タイプ (参耆剤型)

どのような感染症も完治には日数を要するし、残存症状が持続するに従い全身倦怠や筋肉痛を伴うことがある。先人は、この病態に対して、まず柴胡剤を投与し、それでも改善しないときには、人参と黄耆を含む処方 (参耆剤) である補中益気湯などの補剤を運用した。さらに消耗が続くと十全大補湯や人参養栄湯のような地黄を含む方剤も使うこともある。倦怠感の上に、筋肉痛を併発するものもあるが、NDSAIDs では改善せず、基本的に回復のためには3週間以上の時間を必要とする。

滑肉門、大巨：左右の滑肉門と大巨をあわせて施灸することが多く、沢田健先生は「司天在泉」²と呼んでいた。一般感冒が長引く時にも、ここに灸頭針をすると患者は心地よくなり、治癒を推進する。

3. 炎症残存および易発熱性タイプ (滋陰剤型)

今回の SARS-Cov2 は、一般感冒と違い、致死率の高い、(トル) サイトカインストームを引き起こすことがある。炎症を引き起こしやすい状態態としては、高齢者の易感染性状態に近い病態である。一般には、高齢者は尿路感染症か呼吸感染症を引き起こしやすい。この易感染性は、東洋医学的病態としては陰虚証に相当するが当てはまるのではないだろうか。COVID-19 が高齢者において致死率が高いと言われていたのは、高齢者には潜在的に陰虚証が多いからであると考えられる。代表処方としては、滋陰降火湯が最も対応する。また、一貫堂の解毒証の処方も対応する。その処方は、年齢によって次のように分類される。

幼年期：柴胡清肝湯

青年期：荊芥連翹湯

老年期：竜胆瀉肝湯

年齢を考慮して陰虚のための処方を選ぶ際には、この3処方から選定すること多い。

なお、陰虚証については次号で詳説する。

関元：八味地黄丸の腹証には、腎虚に相当する臍下不仁がある。臍下の力がなくなり、正中芯が触れやすくなる。臍から3寸したにある関元穴が臍下不仁の治療点になることが多い。

島田隆二先生は、下痢をする場合には直接灸を多壮し、便秘にはむしろ間接灸がすすめていた。³

4. 副交感神経関連タイプ (苓朮剤および附子剤型)

近年、自律神経擾乱を持つ人は増えている。自粛生活で運動が減ること、夜間のブルーライトを浴びるパソコン作業などで、交感神経の活動時間が長くなり、日中に副交感神経優位状態が続く人が増えた。これらの人々は、めまい、立ちくらみのために午前中は動きがわるいのが特徴である。身体とくに第3スペース (間質非機能的細胞外液) に水が溜まりやすく、鳩尾のあたりに痞えを訴える。腹診では心下痞または心下痞硬といわれる。漢方では、苓桂朮甘湯を使う。山本巖先生は、この苓桂朮甘湯が適応する体質の方を「フクロウ型」と名付け、その正常の反対の体質を「ヒバリ型」と呼んで、防風通聖散を運用した。副交感神経関連タイプには、苓桂朮甘湯が適応するのではないかと予想するが、やや病状が進むと、真武湯のような附子剤が必要になることもある。

身柱：日本では、子供の養生 (健康増進) にこの身柱をつかっていた。代田文誌先生が学童施灸する際に頻用した灸点である。めまいに運用する際には、取穴において重要コツがある。それは、深谷伊三郎先生は、通常の第3棘突起下だけでなく、その横や斜め上下などに変動して反応があるので、正確にツボをとることを推奨している。ちなみに、「身柱変動穴」⁴と呼ばれる。

上記、4タイプの Long COVID に運用できると思われる経穴を挙げたが、最後に以下の点を強調しておきたい。

足三里、曲池：この2点は、すべてのタイプにおいて使いたい経穴である。沢田流では、太極療法の基本である。今回の COVID-19 は、変異を繰り返す点を考えると、再感染、とくにワクチン接種後の Breakthrough infection が危惧されるので、予防対策として、足三里と曲池が必要である。

その上で、運動と休養と栄養水分補給が必要である。今は離れている家族や友人に頻りに連絡しあうこと、いつかまた会える楽しみを想像することが不可欠であろうと考える。

NAJOM の紙面を拝借して、尊敬するマーリン先生へのお返事とさせて頂いた。

ありがとうございました。

文献

- 1) 代田文誌：『鍼灸治療基礎学（澤田健先生校訂、代田文誌著）』、医道の日本社、1940年
- 2) 代田文誌：沢田流聞書『鍼灸真髓』p265、医道の日本社、1941年
- 3) 深谷伊三郎；『お灸で病気を治した話』 鍼灸の世界社 1972年
- 4) 島田隆司 著作集（上下冊）日本内経学会 2001年

山岡傳一郎（やまおか でんいちろう）

現職 愛媛県立中央病院 漢方内科主任部長
 愛媛大学医学部 臨床教授
 1983年 愛媛大学医学部 卒業、同年 中国へ
 チュイン医科大学で鍼灸研修
 1983-1985年 愛媛県立中央病院臨床研修医
 1985年 愛媛県立中央病院東洋医学研究所勤務
 2004年 カナダ・マギール大学にてマーガレット・
 ロック教授の下で短期研修
 2005年 東洋医学研究所所長、総合診療部部長

Long COVID Study *NEW* | moxafrica
 は、以下のサイトより見ることが出来ます。
 moxafricaと連帯しよう！

<https://www.moxafrica.org/about-4>

MOXAFRICA
 UK registered charity researching the potential of direct moxa to treat TB
YOU CAN HELP US!

Moxafrica has completed the only scientific study looking at the effects of moxa on TB and HIV today.

We are now developing further research into the effects of moxa on the immune system in North Korea.

We aim to empower people to help themselves with home therapy that helps recovery.

* Someone somewhere dies of TB every 15 seconds.
 * Drug resistance is on the rise.
 * Moxa really could help save lives.

We need **DONATIONS / IDEAS / VOLUNTEERS**
www.moxafrica.org
info@moxafrica.org

Traditional Japanese Acupuncture Institute

2022 Dates Set!!!
 6 Module 150 hour Certification Program
 1 weekend/month - Friday-Sunday : April-September

“Nothing like this has ever existed in North America before.”
 – Bob Quinn DAOM, LAc

Study with master practitioners from around North American and Japan! This truly unique program is the only one of its kind to take major influences in the world of Traditional Japanese Acupuncture and mold them into one cohesive course of study.

Complete with hands on instruction, demonstrations, review sessions, and a professional atmosphere where participants are able to give treatments under the supervision of the master instructor.

“The best of the best in Japanese Acupuncture Certification in the US.”
 – Atsuki Maeda DAOM, LAc

Instructors: Stephen Brown, Jeffrey Dann, Takahiro Funamizu, Koei Kuwahara, Atsuki Maeda, Mark Petruzzi *Plus a zoom lecture from Junji Mizutani!

\$3400 for full TJA program - \$500 savings!!
\$650 to attend an individual module
 Payment plans available

Location:
 Comfort Inn
 24 Oak Drive, Syosset NY 11791

For more information on dates and modules, visit our website at:

tjai.org